
こどものじかん

コニ丸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こどもものじかん

【Nコード】

N9088X

【作者名】

コニ丸

【あらすじ】

幼い頃に両親が離婚し、育ての親である父親から全く関心を持たれていないヤマト。

自分を守る為にウソをついてばかりいるヤマトが、ついに見つけた居場所とは。

第1話（前書き）

この小説は大学生のゲイ二人が書くりレー小説です。よって、先の展開は全く分かりません！笑

なかなか更新できないかもしれませんが、頑張って完結させたいと思っております。是非よろしくお願いします。

第1話

結論から言って、愛に飢えているんだと思う。
誰からの？いや、あらゆるものからの愛に。

ボクは世界中の誰からも相手にされていない。

「ヤマト。お前夏休みくらいどっか行ったりしないのか？」
Tシャツにトランクス姿の父さんがガリガリくんをかじりながら言う。

「来週の月曜に友達と川に行くことになってる。智則が免許取ったから、あいつの車で行くんだ」

ボクは価格.comで掃除機のレビューとにらめっこをしながら答えた。今使っている掃除機の吸引力の弱さには、いい加減もううんざりだ。

「そうかー気をつけるよ。新免のドライバーの事故は多いからな」
「わかったわかった。じゃあちょっと智則んちに来週の打ち合わせに行ってくるから」

パソコンを消して、そそくさと家を出ようとする、父さんに呼び止められた。

「これ。」

そう言うと、父さんはボクの手に一万円札を握らせた。ガリガリくんが溶けていたのか、ごつごつしたその手はベタついている。

「御飯でも食べに行きなさい。」

「ありがと。じゃあ行ってくる。」

ボクはいつものようにウソをついた。父さんはボクのウソに気づ

いている。ボクが友達と川遊びに行くようなヤツじゃないことくらい、さすがに分かっている。でも父さんはウソに対して何も言わないこともボクは分かっている。

男二人で暮らすには広過ぎる玄関を出ると、強烈な熱気が襲った。それと同時に、目の前を陸上部の高校生集団が掛け声を出しながら走り抜けていった。

こんなうだる様な空の下を走るだなんて、とても正気の沙汰じゃない。現にこれ以上歩くのがもう面倒になってきた。最寄りの駅までは歩いて十五分・・・しかし今日のボクには久々に重大なミッションがある。

携帯を手に取り、画像フォルダを開く。画像を見た感じ、久々にアタリの予感。

ボクは女に興味が無い。というか、男にしか興味がない。

ボクが幼稚園の頃に両親は離婚し、ボクが中学を卒業するまで父さんが経営するパチンコ屋の寮の一室に一人で住んでいた。今改めて考えれば非常識極まりない親だと思うけれど、寮に住んでいるアルバイトや社員の人達とずっと遊んでたし、一緒に御飯も食べたりにいたから寂しくはなかった。

父さんかというと、他の店舗の管理だとか付き合いだとかで週に一、二回程度しか顔を合わすことはなかったけれど、父さんが寮に来ると緊張してしまうから顔を出しに来る水曜日が憂鬱だった。だって、父さんがボクにこれっぽっちも興味がないことは分かっているから。

父さんの目には今も昔も変わらずボクは映っていない。映っているのは金だけだ。今住んでいる家も仕事関連の知り合いから買ったもので、ボクと父さんで住むにはどう考えても広過ぎだ。

あまりにも広いところに一人で住むのもなんだからボクを呼んだらうけど、ボクは基本的に部屋に籠りっぱなしだし、一人暮らしの時と生活のリズムはあまり変わらない。最初に父さんから連絡を受けたときは死ぬほど気が重かったけど、むしろ寮よりも広いし便利で快適で、今となっては何をするにも億劫になってしまっているほど、ここでの生活を満喫している。

だからこうやってたまにゲイ向けの掲示板を見て、気になった相手とメールでやりとりをして、気が合えば実際に会って遊ぶことが気分転換になっている。昨日お互いの画像を交換したんだけど、なかなかカッコいいし向こうもボクのことを可愛いつて言ってくれた。可愛いつて言われるのは照れるけど、悪い気はしない。

メールと画像の感じからすると、明るそうな人だし仲良くなれそうだな．．．あれこれ妄想をしながら歩いていると駅が見えてきた。できるだけ汗はかきたくなかったけど、駅についた時にはカッソソに汗がじんわり染みていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9088x/>

こどものじかん

2011年10月25日02時53分発行